

desknet's NEOって、本当に使いやすいの？

他の会社はどんな活用してるの？

お客様の声、 集めました。

ヴァイオリニスト松尾依里佳が

ユーザーを訪問！

デスクネッツネオ
ユーザー事例集

vol.1

desknet's NEO

グループウェア デスクネッツネオ



「使われないシステムをなくしたい。」

そう考え、みんながもっと“使いたくなる”

グループウェアを目指したデスクネッツネオ。

たくさんのお客様のお悩みを解決しています。

desknet's NEO イメージキャラクター
ヴァイオリニスト松尾侖里佳



01

株式会社オーエム製作所
顧客対応の効率化

P.03

製造

100 ユーザー

クラウド版

02

三幸製菓株式会社
部署横断的な情報共有

P.05

製造

250 ユーザー

パッケージ版

03

山陰酸素工業株式会社
グループ企業間の情報共有

P.07

製造

893 ユーザー

パッケージ版

04

広友ホールディングス株式会社
タブレット活用

P.09

サービス

700 ユーザー

クラウド版

05

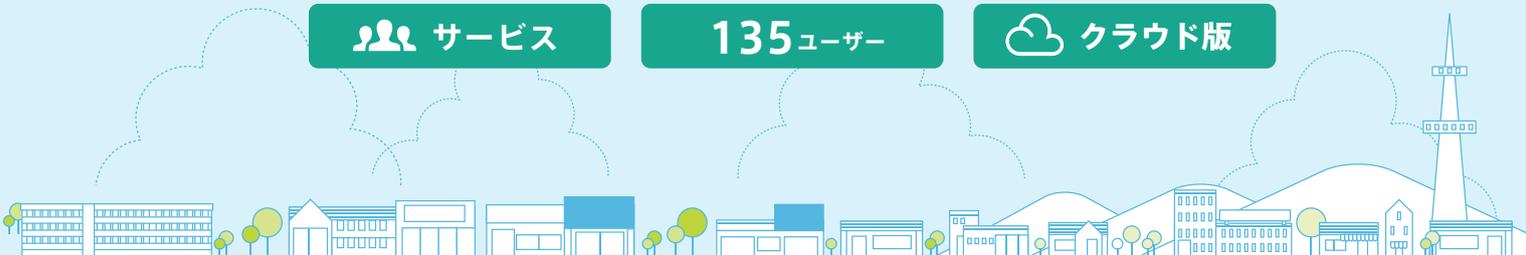
株式会社みどり会
セキュアなモバイル活用

P.11

サービス

135 ユーザー

クラウド版





06

社会福祉法人 狛江市社会福祉協議会
スピーディーな情報共有

P.13

 福祉・医療

55 ユーザー

 パッケージ版



07

医療法人社団紺整会 船橋整形外科病院
他システムへの入口を統合

P.15

 福祉・医療

554 ユーザー

 クラウド版

08

医療法人 栄寿会 真珠園療養所
コミュニケーション円滑化

P.17

 福祉・医療

190 ユーザー

 パッケージ版

09

大成建設株式会社
グループ経営の強化

P.19

 建築・不動産

13,000 ユーザー

 パッケージ版

10

三紀運輸株式会社
システム利用効率の向上

P.21

 交通・運輸

150 ユーザー

 パッケージ版

11

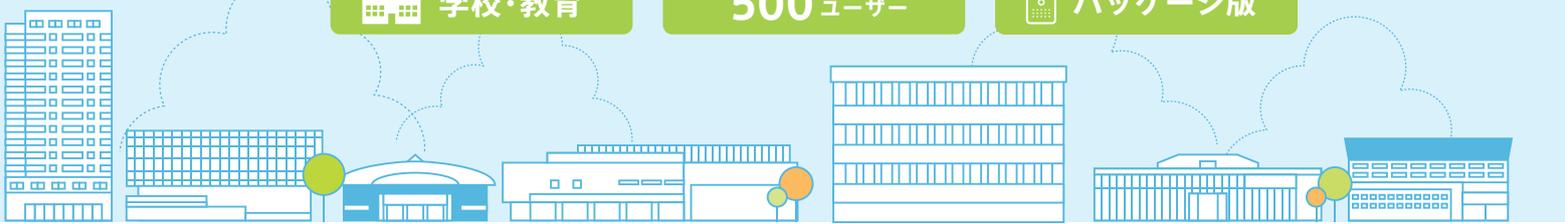
学校法人麻生塾 麻生専門学校グループ
設備利用の効率化

P.23

 学校・教育

500 ユーザー

 パッケージ版





O-M Ltd.



株式会社
オーエム製作所



工作機械、自動機械等の
製造販売

100
ユーザー



製造



クラウド版

ご利用製品	desknet's NEO (desknet'sクラウド サービス利用型)						
導入時期	2010年	従業員数	322名	設立	1949年7月	所在地	大阪府
事業内容	工作機械、自動機械、その他諸機械の製造販売						
URL	http://www.omltd.co.jp/						

「 desknet's NEO への乗り換えで利用機能を拡大。
お客さまへのレスポンスも飛躍的に向上しました。」

工作機械や自動包装機械のメーカー、株式会社オーエム製作所。ミクロン単位の加工精度を実現する最新鋭の工作機械は、航空宇宙分野、シェールガス、新幹線の車輪加工・整備など最先端分野で活躍しています。自動包装機械分野では、大手食品・製菓・製菓業各社に累計7,000台の製品を納入。商品の安全性や衛生の追求、包装材の簡易化や包装の効率化による環境負荷の軽減など最新の技術で、高度化する製造現場のニーズに応えています。より高レスポンスな営業戦略を目指す同社では、グループウェアをdesknet'sからdesknet's NEOへと乗り換え。そのメリットを最大限活かしながら営業力の強化を推進しています。

この事例の
ポイント

- 1 役員のスケジュール管理を主目的にdesknet'sを採用
- 2 利用状況や効果を確認めながら、段階的にユーザーを拡大
- 3 [ウェブメール]を効果的に活用するため、desknet's NEOへ乗り換え
- 4 拠点を越えた高レスポンスな営業体制を確立
- 5 [ウェブメール]+スマートフォンで、迅速なお客さまへの対応を実現

役員の予定管理を主目的に導入

——すでにdesknet'sを数年間にわたってご活用いただいていたました。

かつては、役員のスケジュール管理を担当秘書がエクセルで管理していた時代もありましたが、情報の確認に時間がかかりスケジュールの管理にも不自由していました。さらに役員間のスケジュールの共有もできませんでした。そこで製品を検討するうちに、DISソリューション株式会社の方からdesknet's(ライト版)を提案していただきました。営業担当に当社の役員が同行してお客様を訪問する機会が度々あり、役員訪問のスケジュール管理を効率化することが当初の主目的でした。グループウェアはdesknet'sが初めてでしたが、使い勝手がよく、より多くの社員が活用するべきではないかという判断からユーザー数を拡大してゆきました。

利用状況や効果を確認めながら、段階的にユーザーを拡大

——desknet'sの利用をどのように広げていったのですか？

desknet'sを導入してから、まず役員の行動が把握しやすくなり、顧客対応がより迅速になりました。情報管理と共有の効率化が進む事を実感して、これは役員クラスなど特定のユーザーだけの利用にとどめておくのも惜しいということになり、徐々に利用ユーザーを拡げていきました。当初は部・課長クラスからはじまって、やがて本社の社員に定着。その後、東京の全社員も利用を開始し、製造現場の工場長や部課長へと着実に活用の領域が拡がりdesknet'sが定着してゆきました。



常務取締役
佐藤祐二様



経営企画管理部
人事総務課長
豊田正浩様



経営企画管理部
人事総務課
岸本順子様

[ウェブメール]を効果的に活用するため、desknet's NEOへ乗り換え

——desknet's NEOへ乗り換えたのは、どのような理由からですか？

試用の結果desknet's NEOの[ウェブメール]がスマートフォンで大変使いやすかったからです。desknet's NEOに乗り換えた狙いは、外出先で営業の社員自身がリアルタイムで情報を確認し、顧客へのレスポンスをよくすることでした。折良く社内電話の環境も一新されることになり、乗り換えと同時に役員・営業担当社員はすべてスマートフォンに切り替えました。昼間は営業担当者の多くが出払っていて、営業事務スタッフが顧客からの連絡を取り次いでいましたが、desknet's NEOの[ウェブメール]とスマートフォンでお客様対応のレスポンスが飛躍的に向上しました。移行に合わせて、マルチデバイス対応で外出先でも活用しやすく、海外拠点でのアクセスにも適したdesknet'sクラウドを採用しました。専任のシステム担当者がいなくても運用効率が高く、イニシャルコストが低く抑えられたこともdesknet'sクラウドの大きなメリットでした。

拠点を越えた高レスポンスな営業体制を確立

——desknet's NEOへの乗り換えによって大きな変化はありましたか？

desknet's NEOに切り替わるのと同時に当初の目的通り、[ウェブメール]の利用を開始しました。入社すると必ずdesknet's NEOを確認する習慣も定着して、インフォメーションは必ずチェックするようになりました。スケジュールも外出先でリアルタイムに共有・確認できるようになり、本社と支社などの各拠点との情報共有もさらに効率良く活用できるようになりました。紙の書類で管理していたものやメモで伝えていたものが少しずつ整理され、社内のペーパーレス化も進んだと思います。

迅速なお客さまへの対応を実現

——desknet's NEO導入後の効果についてお聞かせ下さい。

導入後、大きなトラブルもなく、desknet's NEOの活用でさまざまな事案に対するレスポンスが飛躍的に速くなりました。顧客対応や意思決定も以前に比べ、より迅速かつ確実なものとなっています。desknet's NEOに情報が集約され、営業支援の強化や個々の業務のスピードアップには確実に繋がっていると思います。また、グローバル展開が加速しており、アメリカ、中国、台湾などの海外拠点でもdesknet's NEOを活用。本社の動きをつねに把握し、現場の実情をいち早く伝える手段にもなっています。今後は製造現場などへの利用者の拡大と、業務に適した機能活用を充実させてゆきたいと思います。

ご利用中の機能と使い方

15 スケジュール

全役員と社員の予定を公開。「予定が入っていない場合は入れても良い」というルールで活用。空き状況がひと目で分かり、複数の社員の予定を一度に確認し、効率良く会議の日程などを確定できるようになった。営業の所在や予定が全部署で確認でき、迅速かつきめ細やかな顧客対応が可能となった。

伝言・所在

desknet's NEOより新たに活用。紙のメモを廃止し、伝言や連絡事項の通知に活用。ペーパーレス化を推進している。

▲ オーエム製作所様ご利用中の「スケジュール」画面

設備予約

会議室、応接室、テレビ会議システム、社有車を管理。空き状況がすぐ分かり、先の予定も組みやすい。大阪～東京のテレビ会議では、スケジュール確定と同時に機器を予約している。

ウェブメール

営業の社員が活用するためにdesknet's NEO乗り変えの契機となった機能。スマートフォンでの利用が中心となっており、顧客からの問い合わせやレスポンスの向上に効果を挙げている。

▲ オーエム製作所様ご利用中の「設備予約」画面

インフォメーション

desknet's NEOによって利用度が向上。社内連絡や通達などオフィシャルな事項に活用している。インフォメーションに上げるだけで告知・共有できるので、個別にメールを発信する必要がなくなった。

ワークフロー

desknet's NEOより新たに活用。以前は紙ベースで行っていた各種決裁を徐々に移行。

▲ オーエム製作所様ご利用中の「インフォメーション」画面





三幸製菓 株式会社



米菓製造販売

250

ユーザー



製造



パッケージ版

ご利用製品	desknet's NEO		
導入時期	2012年	従業員数	1,060名
設立	1970年5月	所在地	新潟市北区
事業内容	あられ・おかき・おせんべいなど米菓の製造販売		
URL	http://www.sanko-seika.co.jp/		

「使いづらかったC/S型グループウェアからdesknet's NEOへ。
各部署の有益情報を集約。全体的な営業支援体制を強化できました。」

ロングセラー「雪の宿」「チーズアーモンド」「粒より小餅」「ぱりんこ」などのヒット商品の数々を世に送り出し、ユニークなテレビCMシリーズも印象的な、三幸製菓株式会社様。食品の仕事に欠かせない重要情報や消費者の意見、製品を取り扱う得意先バイヤーの要望などを共有するために、早期よりグループウェアに注目していました。しかし、かつて導入したC/S型製品が最新の環境に適合せず、情報共有の機能を果たしきれなくなったことからdesknet's NEOにリプレイス。情報発信・共有の効率化が、そのままビジネスのスピードアップと、きめ細やかな顧客フォローにつながっています。



この事例の ポイント

- 1 C/S型のグループウェアを導入していたが、利用の限界にきていた
- 2 Web型グループウェアdesknet's NEOを採用し、情報共有環境を刷新
- 3 導入時のねらい通り、社内教育なしで活用が定着
- 4 desknet's NEOで、各部署を結ぶ横断的な情報共有を実現
- 5 ビジネスを切り拓く価値ある情報が、desknet's NEOに集約された

C/S型のグループウェアを導入していたが、利用の限界にきていた

チームワークやビジネスのスピード感を大切にしようと、現社長が就任した当時C/S型のグループウェアを採用しました。主に営業支援を目的として、「営業日報」「業務連絡」「顧客からの要望やクレーム情報」「企画開発室から営業に発信する商品情報」「商談時のバイヤー様の声」などを共有していました。しかし導入より10年以上が経過し、プラットフォームもバージョンも古いままでした。すでに機能は追いついていないし、運用を担える社員も不在となり、半ば陳腐化していたのです。

Web型グループウェアを採用し、情報共有環境を刷新

環境を見直して、営業だけではなく製造や企画開発などの各部署を密接に結び、情報共有の力を強化したかった。当初は、社内SNSの導入を検討していましたが、代表的なグループウェアをいろいろ見てWebベースの製品に気持ちが悪く動いていったのです。当社の社長は「ここで机に座っていても世の中の動きは分からない」と、全国の展示会視察などに積極的に行かせてくれるのですが、あるIT展示会でdesknet's NEOのブースを見た時、これなら「今、やりたい事ができそうだ」と直感的に感じたのです。そこで試用を経て一気に導入まで進みました。

—— desknet's NEOの決め手はどこに？

まず、アイコンやデザインなどのインターフェース。さらに、試用で感じた感覚的な使いやすさでしょうか。これなら、ユーザーにあれこれ説明するまでもなく、使いこなせると思い



代表取締役社長
佐藤裕紀 様



システムマネジメント部
次長
荒井俊信

ました。その背景には、前製品の苦い経験から得た教訓がありました。世界的にも著名なC/S型の製品でしたが、とにかくユーザー教育が大変だったのです。極端な話ですが「導入しても社内教育など必要ない」という製品でないかぎり、社内にはなかなか根付かないのですよ。

——データ移行はどのように行われましたか？

一番先にIDを作らなくては行けなかったのですが、前製品が古すぎて書き出すことができません、人事給与システムからdesknet's NEO用にあわせてレイアウトを作成してインポートしました。部署毎のデータ移行はユーザーに判断を委ね、どうしても必要なデータを期日までに各部署で、場合によっては手入力で作成してもらいました。少し労力はかかりましたが、いつまでも使わないデータを残しておいてもムダですし、本当に必要なデータを精査できたという意味では、かえって良かったと思います。

狙い通り、社内教育なしで活用定着

当初、試用版をテスト的に使ってもらったんです。すると、みんなそれぞれ自由に使い始めて、説明もしていないのに、ネオツイなども活用していますし、文書管理やキャビネットの使い方も分かっている。それを見て正式な導入を決定しました。導入教育は一切行わず、そのまま自然に利用が定着してゆきました。

desknet's NEOで、各部署を結び横断的な情報共有を実現

当初のねらい通り、営業と企画開発室など、情

報共有によって効果が上げられそうな部署間の情報共有や意見交換が活発になりました。「desknet's NEOで、今まで実現しなかった、様々なことができるようになった」と社員からの反響もありました。例えば電子会議室では、相互の意見交換もしやすくなり、重要情報をリアルタイムで共有し、次のアクションに繋げることに成功しました。各種機能の相乗効果で、ビジネスのスピード感がアップし、全社的な営業支援強化に繋がったと思います。

ビジネスを切り拓く価値ある情報が集約された

——導入後、社内のコミュニケーションはどのように変化しましたか？

導入後短時間で活用は定着しており、製品には満足しています。これからは、使う人たちが受けとった情報に対して良好なレスポンスをして「何か次のもの」「新しい一手」を生み出すような社内の空気を醸成したいですね。すでにdesknet's NEOには有益な情報が集まっており、製品の改善や顧客要望への細かな対応を実現しています。今後は、社員一人ひとりがそれを活かしてゆく文化を高めたいと思います。営業はもとより、総務、人事、システム、企画開発、業務、物流、資材購買など、間接部門のあらゆる部署が利用して浮かび上がるさまざまな事象がdesknet's NEOを見ればわかる。その情報を色々な人と議論しながら、ビジネスを切り拓いてゆく社内環境が整えられたら良いと思います。

ご利用中の機能と使い方

インフォメーション

社内連絡、総務から全社員への発信などに活用。トピックを上げて、電子会議室や文書管理に誘導するなど、他機能を活用するための事前告知にも使われている。ユーザーアカウントがあれば、誰でも活用できるようにしている。

15 スケジュール

部署や上司、他の社員の行動予定などを同時に確認できることで、企業全体の動きが把握でき、相互の予定調整がしやすくなった。「伝えたい人に伝わるよう」にスケジュールを入れることで、予定管理の効率も上がっている。

文書管理

顧客提案資料を作成する過程で、文書を共有し内容や必要項目を検証しあったり、アップグレードに必要な実行ファイルを置いておき、インフォメーションを通じてユーザー各自に更新してもらうなど多用途に活用。全社公開フォルダとは別に、部署毎のフォルダにはアクセス権を設定し、人事、総務などの重要情報を管理している。今後とも利用度が高まることが想定され、活用状況にあわせてルールを決めてゆく方針。

ポータル

desknet's NEOをポータル化し、そこを入り口に社内のさまざまなシステムにアクセスできる。営業には欠かせない天気を表示しているほか、売上関係や在庫管理など業務系のものから、社員食堂の食事予約まで、社内の各種システムと連携しており、出社したらまずdesknet's NEOにログインすることになっている。

電子会議室

最も利用頻度が高い機能。「新商品」「クレーム」「お客様の声」などの会議室を設置し、取引先バイヤーからヒアリングした商品要望などが企画開発室と迅速に共有され、新規商品開発に効果を発揮している。部署間の情報交換が活発となり、効果的な業務改善・商品開発力のアップにつながった。



▲ 三幸製菓様ご利用中の「ポータル」

設備予約

会議室、社用車、プロジェクターなどの備品、共用の携帯端末などの管理に利用。

ネオツイ:つぶやき

気軽に自由に使って「発想・アイデア・気づき」などの可能性を広げるのが当初からのねらい。気張らずにアイデアの発信・交換・共有ができるようにしている。

ネオツイ:ダイレクトメッセージ

他部署への伝達。前置き・メール定型文などが省略でき、要件を端的・的確に伝達できるため、社内コミュニケーションのスピードアップに繋がっている。メールの濫用を防止し、本数を抑制する効果も得られている。



▲ 三幸製菓様ご利用中の「ポータル」





山陰酸素工業 株式会社



流通・小売

893

ユーザー



製造



パッケージ版

ご利用製品	desknet's NEO			
導入時期	2001年	従業員数	288名	
事業内容	設立	1946年9月	所在地	鳥取県米子市
URL	http://www.sanin-sanso.co.jp			

「企業グループ12社2組合の情報共有基盤として進化を続けています。」

ガス供給・ガス関連機器の販売を主力事業に、山陰地域でトップクラスのシェアを誇る山陰酸素工業株式会社様は、12社2組合からなる「山陰酸素グループ」の中核企業として、エネルギー、自動車、食品など関連企業各社の経営も統括しています。

多彩な事業領域をカバーするグループ各社の事業品質を高めるため、企業間相互の情報連携やコミュニケーションを重視する同社では、情報の共有基盤となるツールとしてdesknet's NEOを採用。グループ企業全体の経営力強化に活用しています。



この事例の
ポイント

- 1 いち早くIT活用を推進。2001年グループウェアを導入・活用
- 2 大規模ユーザーの企業グループに適したコストパフォーマンス
- 3 グループ企業各社の事業に則したdesknet's NEOの活用が定着
- 4 12社2組合の情報共有基盤として、各種システムとも連携
- 5 導入13年。企業グループの成長とともに活用も進化

いち早くIT活用を推進。2001年にグループウェアを導入・活用

—— 事業へのIT活用には、早期より取り組んでこられたようですね。

まだコミュニケーションがメール主体だった90年代には、メールソフトを利用していました。社内コミュニケーションにはそれなりの効果を上げたものの、グループ企業間の情報共有や連携には不十分で課題も多かったのです。取引先やグループ企業間のメール送受信はもちろん、スケジュールやイベント情報の共有、社内規程や各種申請書類の保管、設備の予約管理など、本社やグループ企業各社から、「こんな使い方をしたい」という多様なニーズが挙がっていました。そこで、情報共有の基盤となるグループウェアの導入を検討し始めたのです。

大規模ユーザーの企業グループに適したコストパフォーマンス

—— グループウェア製品の選択ではどのような点に留意なさいましたか？

最初のメールソフト導入時、トップには「シンプルで使いやすい製品を選択するように」という意向がありました。グループウェアも同様で、事業内容の異なるグループ企業の誰もが使いこなせる“わかりやすさ”や“普遍性”が求められていたと思います。もちろん、コストや運用効率も重要なポイントでした。

—— desknet's NEO採用の決め手は？

desknet's NEOは各機能が使いやすく、特に[ウェブメール][スケジュール][閲覧・レポート]などが充実していました。競合製品との比較で、そのインターフェースが「シンプルでわかりやすい」のが当初からの狙いにピッタリでした。これなら事業内容の異なるグループ企業各社のニーズにあわせて活用できるし、全体の



管理本部
情報システムグループ
グループ長
永田善昭 様



グループ経営本部
グループ経営部
課長
原田健志 様

情報共有・連携も実現しやすいと判断しました。さらに、最も重要な決め手となったのがコストです。グループ企業全体への普及と連携を前提としていましたので、活用する企業各社のコスト負担にも配慮しなくてはなりません。将来的なユーザー数増大も想定しつつ比較したところ、大規模ユーザーにはdesknet's NEOがコスト面からも優位で、グループ企業各社に展開した場合、「使うほどに投資効果が得られる」というメリットが予測できました。

グループ企業各社の事業に則したdesknet's NEOの活用が定着

最初に独自の操作・運用マニュアルを作成・配布し、desknet's NEOでも共有しました。導入段階ではグループ各社ごとにユーザー研修会も開催しました。グループ企業にはシステム担当者による細やかなフォローアップ体制を整え、各社の事業や業務内容に適したサポートを実施しています。グループ全体で導入目的を確認・共有しあい、導入説明会を実施した最初のステップと、各社のシステム担当が問い合わせ窓口となりより実務に則したフォローをする各事業会社でのステップ。2段階の手法をとったおかげで、ユーザーも戸惑うことなく業務に活用できたのだと思います。

12社2組合の情報共有基盤として、各種システムとも連携。

desknet's NEOとなり、より直感的なインターフェースで操作性が向上したというユーザーからの評価も得られ、移行後の問い合わせもほとんどありませんでした。移行を契機にウェブメールの保存容量を増量するなど、

ニーズに応じた使いやすさの追求にも継続的に取り組んでいます。

導入13年。企業グループの成長とともに活用も進化

—— 永年ご利用いただいておりますが、これまでの効果についてお聞かせください。

desknet's NEOの導入によって、会議などのスケジュール調整や重要情報の伝達・確認など、最も基本的な情報共有に関しては確実に効率化が進み「desknet's NEOを山陰酸素グループの情報共有基盤に」という当初の目的は実現できました。

ITの進化と共にユーザーのリテラシーも向上しており、各種機能を「このように活用したい」といったアイデアがグループ企業各社から同時多発的に生まれています。他のグループ企業の活用事例を自分たちの業務に活かすという良い相互作用もあり、[ダイレクトメッセージ]の自発的な活用など、社内コミュニケーションにも有機的な変化が起こっています。また、desknet's NEOの移行に合わせデータセンターの利用を開始したことが、災害や停電に伴うシステム停止リスクの軽減、業務への影響範囲の最小化などBCP対策の基盤となりました。

現在、社内イントラネットの全業務システムをdesknet's NEOポータルから連携できるように整備中です。また、モバイル活用については、すでに20台稼働しているiPadの追加導入も計画しています。

今後は、グループ企業間の利用度の格差を改善し、より盤石なグループ全体の情報共有基盤として発展させていきたいと思っています。

ご利用中の機能と使い方



ウェブメール

社内外のメール送受信に活用。利用度に合わせ保存容量をユーザーあたり100MBへ増量。部署代表アドレスの共有管理を実現し、迅速な顧客対応への体制を整備。大容量ファイルのメール添付を抑制するため[閲覧・レポート]と使い分けて利用している。



インフォメーション

本社およびグループ各社から全ユーザー・業務担当への伝達・告知に利用。入退社による新規および停止ユーザーの告知、システム・メンテナンス案内、自社コマercialの放映時間の案内など、グループ全ユーザーへの告知・予定共有に活用。



キャビネット

各種ファイルの個人保管に活用している。データセンターへの移行後、個人で管理する情報に関して、より厳格な社内ルールを整備中。



15 スケジュール

個人スケジュールの管理と共有に活用。各社の事業特性にあわせ、グループ企業ごとにルールを設定している。会議・打ち合わせ予定など空きスケジュールをユーザー間で決定できるようルールを整備中。代表取締役社長以外の全役員・社員のスケジュールが公開されている。



設備予約

会議室、応接室、共有設備(プロジェクト、テレビ会議 etc.)の予約管理に活用。



閲覧・レポート

各種案内の配布や回答、協議事項等の意見収集に利用。部署内・部門別会議資料の配付・閲覧状況・出欠なども同時に確認している。紙で配付されていた資料や社内告知はこちらへ移行。[ウェブメール]の添付ファイルを抑制するため、画像や資料など大容量のファイル共有にも活用している。



ワークフロー

慶弔申請などの社内承認フローに利用。用紙を用いた申請は徐々に廃止してゆく方針。



アンケート

社内調査アンケートや業務の進行状況、処理結果の確認などに多用されている。



ブックマーク

共有活用できるブックマークとして、本社、各事業会社、部署ごとに関連サイトへのリンクを共有。



ポータル

desknet's NEOをポータルとし、稟議書や各種申請書の提出、承認ガジェットへの連携など必要な機能へリンクし、シングルサインオンで専用の承認システムと連携している。





広友
ホールディングス
株式会社



リース・レンタル業

700

ユーザー



サービス



クラウド版

ご利用製品	desknet's NEO (desknet'sクラウド ライセンス持込型)						
導入時期	2006年	従業員数	574名(グループ計)	設立	1957年	所在地	東京都港区
事業内容	オフィス什器備品の販売および総合レンタル事業						
URL	http://www.koyou-holdings.co.jp/						

「iPadの操作性向上で、社内のペーパーレス化を一気に推進しました。」

2006年desknet'sエンタープライズ版を導入。経営資源統合によるホールディングカンパニー設立直後の2010年にはdesknet'sクラウドを採用するなど、企業経営の発展と共にdesknet'sを積極的に活用してきた広友ホールディングス株式会社様。2013年11月からはdesknet's NEOへの乗り換えを実施し、あわせてデータベースの見直しや運用ルールの検証なども行われました。広友ホールディングス株式会社の皆さまに、より使いやすく、業務の実情に即したグループウェアの活用法についてうかがいました。



この事例の
ポイント

- 1 desknet's NEO (クラウド版) + データベースの乗り換えでコストダウンを実現
- 2 検証サイトで使用感を事前に分析。desknet's NEOの利用開始へ
- 3 タブレット端末の操作性が向上。[ワークフロー]の利用度も高まる
- 4 自社システムの感覚でdesknet's NEOを使いこなす

desknet's NEO (クラウド版) + データベース乗換でコストダウン

2006年にはじめて導入した時から、多くの社員に親しんでもらえるように社内ではKCS (Koyou Cyber Square=コーユーサイバースクエア)というオリジナルのネーミングで活用しています。新入社員は、あたかも自社のソフトのような感覚で入社時から使いこなすことが定着しています。ログイン画面に、社員に向けた企業ステートメントを入れるなど、経営陣・社員がそれぞれのアイデアを活かして活用しています。

——desknet's NEOへの移行と同時にデータベースも乗り換えられたそうですね。

移行作業は実質3日間で完了しました。バージョンアップやアップグレードというのはシステム全体や運用ルールを見直す好機でもあり、今回は思い切ってデータベースを見直しました。Oracle Databaseは保守費用がかかるうえに、毎年調整費が2~3%ずつ上がっており、先々の運用に心配なところもありました。そこで、desknet's NEOへの乗り換えを契機にPostgreSQLへ移行しました。運用上の大きな変化はありませんし、従来の保守費用分がそっくりなくなりました。さらに、desknet's NEOにすることで、1ライセンスあたりのコストも抑制できたのです。

検証サイトで使用感を事前に分析。desknet's NEOの利用開始へ

——今回は、事前に検証用のサイトをご利用いただきました。

desknet'sからdesknet's NEOへの移行にあたり、検証用サイトを使って2~3ヶ月検証しました。実際に部署のデータを移行して作業を



常務取締役
梅木健行 様



情報企画部
課長
真壁昭夫 様



情報企画部
課長代理
西村武 様

行いながら、desknet's NEOで何がかわるのかを検証していきました。当社はユーザー数も多く利用度の高いヘビーユーザーだったために、ネオジャパンさんが並行して運用上の不具合が生じないか検証を行って下さいました。

——乗り換えに際して気づかれたのは、どのようなことですか？

desknet's NEOではインターフェースが大きく改良されています。まず私たちが実際に業務に利用して今までと異なる操作感がないかなどを検証しました。ユーザーには検証で気がついた今までのdesknet's との相違点を画面キャプチャと共にPDF化して、事前にアナウンスしておきました。問い合わせの多くは、まだ製品になじんでいないことが要因なので、私たちが検証して気づいたところを事前に知らせれば、導入直後の問い合わせ件数も抑えられます。

タブレット端末の操作性が向上。[ワークフロー]の利用度も高まる。

——タブレット端末の利用度が高いそうですが操作性はいかがですか？

事業でタブレット端末の業務用レンタルを行っており、自社の業務にも、すでに200台のiPadを導入しています。タブレットに関しては、画面を拡大することなくそのまま快適に見られ、操作性も格段に向上しています。「社内のデータは外部に持ち出さない」というのが最近の常識ですが、当社も社外に必要な資料はキャビネットに収納したものを閲覧するなどの手

法で、端末には極力データを保存しないように活用しています。セキュリティ面でも活用するメリットが大きいですね。

——新たな機能活用法は生まれましたか？

[アンケート]を社内満足度調査やISO推進の社内アンケートに活用しています。社内満足度調査では各部署の要望や業務上改善すべき案件の提案が行われており、その一環として、紙ベースの申請書を[ワークフロー]化する利用展開が一気に進みました。事業所内はもちろん、事業所間でもFAXでやりとりする申請書や確認書類は多く、それらをdesknet's NEOに移行することで、業務効率を上げるというものです。印刷・通信コスト削減やペーパーレスにもつながり、当社が推進する環境貢献事業の施策ともコンセプトが合致するので、企業全体でポジティブに取り組んでいます。

自社システムの感覚でdesknet's NEOを使いこなす

——desknet's NEO乗り換え後の全体の使用感はいかがですか？

利用機能の運用状況は大きく変わっていませんし、desknet's NEOへ乗り換え後も使い慣れた各種機能の活用とルーティーン・ワークに大きな支障が出ることはありません。これからも社内的にはKCS (Koyou Cyber Square=コーユーサイバースクエア)として定着していきますし、desknet's NEOの進化と共に、つねに新しいバージョンを活用していく事になると思います。

ご利用中の機能と使い方

インフォメーション

部署毎ではなく、「商品情報」「緊急通達」「お知らせ」などの目的別カテゴリでロール機能を設定。

安否確認

東日本大震災で東北の事業所が被災した経験をふまえ利用を開始。年2回訓練を実施し、運用ルールや災害情報の活用など定期的に見直しを図っている。

ワークフロー

desknet's NEOになり使用感が向上。[アンケート]で上がった社員の要望をもとに、各種申請書類のワークフロー化が進んだ。すでに100以上の書式が活用されている。



▲ 広友ホールディング様ご利用中の「ログイン画面」

文書管理

社内規程、ISO取得関連書類、回覧文書など、2006年の導入時から蓄積されたデータがあり、desknet's NEOへの乗り換えをきっかけに各部署の保管データを整理した。利用度が高いので、保管ルールを整備していく方針。

キャビネット

ユーザーが個々の発想で活用しているため、容量を上げて欲しいという要望が寄せられるほど利用度は高い。社内資料を外で利用する際などにデータを収納し、出先ではタブレットで閲覧している。データが端末に残らないのでセキュリティ上も有効。



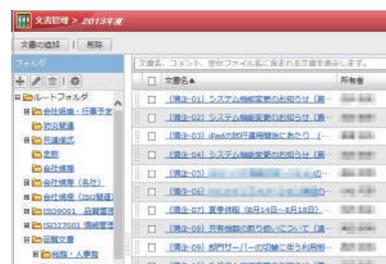
▲ 広友ホールディング様ご利用中の「インフォメーション」画面

アンケート

社内満足度調査やISO推進の社内アンケートに活用。具体的な対応策や改善案を検討する材料にしている。社内満足度調査では各部署の要望や業務上改善すべき案件の提案が行われ、紙ベースの申請書を[ワークフロー]化する利用展開が進んだ。

電子会議室

東日本大震災では被災した事業所とのやりとりに利用された。現状把握と被災状況の確認、緊急支援物資の優先度など事業再開に向け活用した初の試みだった。今後のBCP対策にも活かせる機能。



▲ 広友ホールディング様ご利用中の「文書管理」画面





株式会社 みどり会



人材サービス・保険代理店
・会員事業

135

ユーザー



サービス



クラウド版

ご利用製品	desknet's NEO (desknet'sクラウド サービス利用型)			
導入時期	2013年	従業員数	158名	
	設立	1970年12月	所在地	大阪市中央区
事業内容	参画企業156社の出資による事業法人として、人材サービス業務、保険代理店業務、会員事業業務などの各種サービスを提供			
URL	http://www.midorikai.co.jp/			

「サポートが頼りになるので、しっかりと活用できています。」

株式会社みどり会は、メンバー企業156社の出資で運営されている事業法人です。人材サービス業務、保険代理店業務、会員事業業務を三つの柱に、企業の課題解決をになうグッドパートナーとして多彩なサービスを提供しています。2013年11月、社内で運用していたグループウェアからdesknet's NEOクラウドへの乗り換えによって、クラウド化とセキュアなモバイル環境を低コストで実現。すでに導入・活用していたdesknet's DBとの連携によって、営業力がさらに強化されました。

この事例の ポイント

- 1 クラウド化&モバイル活用に適したdesknet's NEOに着目
- 2 価格とデータセンターへの信用性からdesknet's NEOを採用
- 3 desknet's NEOなら「やるべきこと」が「すぐできる」
- 4 desknet's NEO+desknet's DB連携でさらに使いやすくなった
- 5 コスト削減・クラウド化・モバイル環境構築のすべてを実現

クラウド化 & モバイル活用に 適したdesknet's NEOに着目

——以前は別のグループウェアをご利用なさっていたそうですね。

desknet's NEOの競合として知られる製品でしたが、導入後すでに5年が経過していました。オンプレミスによる運用のため、大規模災害など何か起きたときに心配な要素も多かったのです。しかも、モバイルの環境も整っていませんでした。会社を出たら情報端末が活用できないという不便さは、いちはやく改善したいところでした。

——製品を乗り換えようと、ご検討なさったきっかけは何ですか？

2014年にちょうど既存製品のサポートが終了となり、更新に関する社内同意を得られたため製品比較を行いました。更新時の大きな目標はクラウド化とモバイル活用でした。快適かつセキュアなモバイル環境の構築と災害時の不安要因をいかに除くかを考えると、やはりクラウド化しかありませんでした。

価格とデータセンターへの信用性から desknet's NEOを採用。

既存製品の最新版と比較するために、まず選定したのがdesknet's NEOでした。私自身は、技術的にはdesknet's NEOのほうが先を行っていると考えていましたが、社内では当然のように「今まで慣れ親しんだ製品の方がよい」という声も一部で上がっていました。

そこで、両製品を比較する資料を作成し経営会議で検討しました。desknet's NEOは、すでに中小・中堅規模の企業で確かな実績がありシェアも高く、操作面がとてつとわかりやすかったの

で、これなら誰でも使いこなせるだろうということで採用が決定しました。すでに2012年8月よりdesknet's DBを導入・活用していた事もあり、ネオジャパン社の製品に対する社内的な信用も下地にはあったと思います。

——採用の決め手となったのは、どのような点ですか？

製品比較を通して社内でも強い説得材料となったのは、やはり価格ですね。desknet's NEOと既存製品との比較で、その価格差は歴然としていました。さらに、高く評価できたのは、データセンターを開示している点でした。ネオジャパンさんの場合は、「Amazon Web Services」や「ビットアイルクラウド」を採用していることを明示していますが、他社クラウドの多くはデータセンターの情報がまったく開示されていません。銀行グループ会社の当社では、内部統制や情報管理への要求・意識は非常に高く、たとえ「SMSを取得しています」等とうたわれていても、データセンターが開示されていないものを採用するのは難しいのです。実用面では、モバイル・アプリのインストールが不要で、スマートフォンに最適化された画面を標準で活用できることが高く評価できました。

「やるべきこと」が「すぐできる」

——移行と定着はスムーズに進みましたか？

当社は60歳前後の社員が中心ですが、いざ運用を開始してみると、画面を開けば「やりたいこと」「やるべきこと」がすぐわかり、全ユーザーがあたりまえのように使いこなしていました。新たな製品への移行を決っていた一部のユーザーも、画面を開けば何ができるか明瞭で使いやすいと感じていたようです。



取締役
内部統括部長
深日 剛 様

desknet's NEO+desknet's DB 連携でさらに使いやすくなった

desknet's NEO導入の翌月よりdesknet's DBもクラウドでの運用に変更しました。コスト削減効果も得られましたし、シングルサインオンの連携で使用感も向上しました。ゆくゆくはdesknet's NEO+desknet's DB連携の効果を営業力強化に繋げたいと思います。

コスト削減・クラウド化・モバイル 環境構築のすべてを実現

——desknet's NEO乗り換え後の全体の効果はいかがですか？

利用開始から3ヶ月なので機能活用の効果はこれからですが、desknet's NEOの導入によって、モバイル活用が快適にできるようになり、外からメールやスケジュールがチェックできるようになったことは高く評価されています。また、以前使っていた製品はレスポンスも悪かったのですが、desknet's NEOは動作も軽快で快適です。管理者の立場では、全体のコストが削減できた上にサーバーの管理から解放されたこと、クラウド化とモバイル活用の環境整備が同時に整い、ユーザーの満足度も高いことが評価できる点でしょう。以前のようにバージョンアップのたびに過剰に神経や体力を使う事もなくなりそうです。大阪本社と東京本部の連携もより活性化し、desknet's NEOは、コモディティ的なインフラとして定着してゆくと思います。

ご利用中の機能と使い方

15 スケジュール

取締役社長も自ら予定管理を行い、経営陣も含めて全ユーザーの予定を公開している。一部のユーザーは業務上プリントアウトして活用する必要があり、出力しやすいのがよいと評価されている。

ウェブメール

取引先をはじめ、社外とのやりとりに活用。別ウィンドウで[ウェブメール]を使いながら他の機能も活用できるので使いやすいと好評。

回覧・レポート

[ダイレクトメッセージ]との使い分けで、複数人数で資料を共有するときなどに社内メールとして活用。

ネオツイ:ダイレクトメッセージ

特にルールは設けず自由に利用している。主にマンツーマンで、添付ファイルがないときはメールの代わりに活用している。

伝言・所在

出先でも確認できるようになり、モバイル活用の定着と共に、今後実務での利用度が高まってゆく予測している。

インフォメーション

社内のオフィシャルな告知事項に利用。現在は、管理系の一部の人間が発信しているが、メジャーバージョンアップでインフォメーションの権限が設定できるようになったので、今後の社内ニーズに応じて利用度を拡大してゆく予定。



▲みどり会様ご利用中の「インフォメーション」画面

文書管理

各種規程、マニュアル、申請書の書式等の管理に活用。

アンケート

業務の特性からプライバシーマークを取得しており、年に一回義務づけられた研修の際、社内での理解度の確認や社内テストの問題配布と回収に活用。意識共有やクオリティの維持に役立っている。優待販売会、職域販売会やコンサートなど社員総出のイベント終了後、反省会に活用し、サービスの向上に役立っている。



▲みどり会様ご利用中の「アンケート」画面





社会福祉法人
 狛江市
 社会福祉協議会

社会福祉法人

55

ユーザー



医療・福祉



パッケージ版

ご利用製品	desknet's NEO		
導入時期	2007年	職員数	約119名
設立	1970年5月	所在地	東京都狛江市
事業内容	社会福祉法の規定により設立された民間公益法人。市民参加による地域福祉活動の推進・支援、行政からの受託事業、介護保険サービスなどの地域福祉事業。		
URL	http://www.komae-shakyo.or.jp/		

「福祉の現場で起こるリアルな問題を共有し、
 課題の早期解決と福祉サービスの向上に効果をあげています。」

狛江市における地域福祉活動や社会福祉事業の普及・推進を目的に社会福祉法の規定により設立された民間公益法人 狛江市社会福祉協議会。狛江市との連携によって地域に根ざした福祉活動やボランティア・市民活動の推進支援、福祉サービスの提供など、さまざまな福祉事業を行っています。狛江市社会福祉協議会では、人と人との結びつきを大切にする福祉の現場で、グループウェアを活用することに着目。職員間の迅速な情報共有やコミュニケーションの強化を通して、さらなる福祉サービスの向上を実現しています。

この事例の
 ポイント

- 1 職員間の情報共有を効率化し、さらに質の高い福祉サービスをめざす
- 2 福祉の現場を優先したいから、誰もが使いこなせるdesknet's NEOを採用
- 3 直感的な操作でわかりやすい。使うほどに職員が業務効率の向上を体感
- 4 経験が活かされる福祉の現場。desknet's NEOで効果的にナレッジを共有

職員間の情報共有を効率化し、さらに質の高い福祉サービスをめざす
 —— 福祉事業でグループウェアを積極的にご利用なさっているとうかがいました。

福祉事業は、人と人とのコミュニケーションなくしては成り立ちませんし、福祉サービスを利用する方々と直接ふれあい、向き合うことが重要で、グループウェアの活用によって日常の事務的作業の効率化だけではなく、福祉現場で日々起こっている担当者レベルの細やかな情報の共有ができるようになり、お互い知り得なかったさまざまな課題が見えるようになります。それらをより質の高い福祉業務やサービスの提供に活かしたいというのが私たちのねらいであり、基本的な考え方だったのです。

—— 福祉事業でグループウェアを積極的にご利用なさっているとうかがいました。

2003年にノートパソコンを常勤の職員全員に導入したことに合わせて、事業所内のネットワーク構築を行いました。社内のWebサーバーに事業所内ポータルをつくりCGIで掲示板(インフォメーション)や事業所のスケジュールを共有したのです。しかし、個人のスケジュール管理は各自にゆだねられていた為、十分な情報共有ができず、ネットワーク資産も100%活かしていませんでした。そのような中、グループウェアのメリットについて情報を得る機会があり、事業所に導入してはどうかと検討をはじめたのです。その時がdesknet's NEOを知る最初のきっかけでした。

福祉の現場を優先したいから、使いやすさをもっとも重視

—— desknet's NEOをご採用いただくまで



地域福祉課
課長
小幡 寿和 様



地域福祉課
副主幹
高橋 宗孝 様



こまえボランティアセンター
ア・センター
志田 五十鈴 様

の経緯についてお聞かせ下さい。

2007年、社内システムの更新にあわせてグループウェアの導入を決定しました。代表的な複数の製品を選び、デモを通じて比較検討した結果、どのユーザーにも「使いやすい」「導入や運用管理の負荷が少ない」などの理由から、desknet's NEO(初期導入製品はdesknet's Standard)の採用が決まりました。「シンプルで見やすい」というのが第一印象で、機能の細部にまで使いやすさを追求した配慮が感じられたことも大きな決め手となりました。私どもの事業所は年齢が高めのユーザーも多く、当初よりPCスキルを問わず誰もが使いこなせる製品を選びたいと考えていました。事業所の実情に合い、運用コストやバージョンアップなど、継続利用した場合のランニングコストや発展性も試算しながらdesknet's NEOを採用しました。

**直感的な操作でわかりやすい
使うほど職員が業務の効率化を体感**

—— 導入後、利用はすぐに定着しましたか？

実は、それほど苦労はしませんでした。現在、必要な機能だけを抜粋した簡単なマニュアルを作成して、新人職員の研修に活用しています。それを[文書管理]に保管してユーザーがいつでも参照できるようにしていますが、実際にはマニュアルが不要ほど直感的な操作が可能で、ストレスなく動くため、実務で各機能を利用しながら自然に活用が定着していきます。使うほどに業務効率が上がれることをユーザー自身が体感してくれた

ので、あえてOJTなどで指導するなどの苦労はありませんでした。使用感もなめらかで快適ですし、大きなトラブルもなく安定的に動作してくれています。スムーズに利用は定着したと思います。

経験が活かされる福祉の現場で効果的なナレッジ共有

—— desknet's導入後の効果についてお聞かせ下さい。

まず、職員間の情報共有・伝達のスピードが格段に上がりました。[スケジュール]で一日の行動予定がすぐに把握できますし、[インフォメーション][閲覧・レポート]などの活用で、いわゆる「報告・連絡・相談」や上司・経験者へ意見を求めることが効果的に実現できるようになりました。このように、職員1人ひとりの取り組みを可視化できることは大きな効果ですね。「あの人が残業しているのはどの案件か」「この事例に適切なアドバイスができるのは誰か」など個々のケースへのこまかな対応も可能になりました。何より、福祉の現場で日々起こっている重要かつ有益な情報が、よく見えるようになり、効果的に共有できるようになりました。取り組むべき課題にも気がつきやすく、さまざまな事案の早期解決につながっています。福祉の仕事は経験の積み重ねが大切です。desknet's NEOは福祉の現場で培われたナレッジの共有や人的資源管理の上でも有益で、職員の業務の効率化が進む分、福祉サービスの向上にも役立っているのだと思います。

ご利用中の機能と使い方

15 スケジュール

職員は従来は見えにくかった他の職員の取り組みが可視化できるようになり、会議の招集などスケジュール管理も効率化された。検索機能を使って「いつ」「どこで」「なにをしたか」がわかるので、ご利用者宅への訪問記録としても活用。戸別訪問が定期的実施されるよう予定管理にも役立っている。

インフォメーション

職員全体への返信の必要がない情報告知に活用。予算積算の準備等に利用されている。画像の貼付等で伝えたい情報をわかりやすく周知するようにしている。

閲覧・レポート

職員は訪問先などへの外出が多く、以前は紙のレジュメが滞ってしまうことも多かったが解消された。さらに、イベントへの出欠や各種事業計画や提案に対する意見などに活用。会議資料はここで事前配布し、議事進行の効率化をはかっている。

設備予約

車輛、備品(プロジェクター、デジタルカメラ等)、会議室の予約管理に活用。車輛は業務の必需品で以前は当日ホワイトボードに記入していた。事前に利用予定や空き状況が把握でき、スケジュールとの連動で運用の効率化が進んだ。

文書管理

会計・人事・勤怠関連の各種様式フォーマットの他、各種マニュアル類を共有している。

ウェブメール

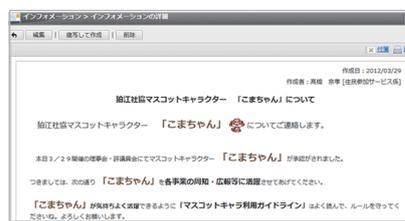
desknet's NEOより利用を開始。クライアントメールに近い操作感で大きな違和感はなく使っている。PCのトラブル時にも別のパソコンですぐにメール環境を再現できるのでクライアントメールから[ウェブメール]へ移行した安心感は大い。

伝言・所在

デジタル伝言メモとして活用。緊急性がなく返信不要な日常の伝達事項に活用。



▲ 狛江市社会福祉協議会様ご利用中の「スケジュール」画面



▲ 狛江市社会福祉協議会様ご利用中の「インフォメーション」画面



医療法人社団
紺整会
船橋整形外科病院



病院

554

ユーザー



医療・福祉



クラウド版

ご利用製品	desknet's NEO (desknet'sクラウド ライセンス持込型)						
導入時期	2013年	職員数	554名	設立	1989年	所在地	千葉県船橋市
事業内容	医療法人社団。医療法人社団紺整会として、船橋整形外科病院、船橋整形外科西船クリニック、船橋整形外科市川クリニック、船橋整形外科市川リハビリクリニック、介護老人保健施設フェルマータ船橋、などを運営。						
URL	http://www.fff.or.jp						

「NEOを入りに、各種医療システムを自在に活用しています。」

医療法人社団紺整会 船橋整形外科病院様は「地域医療」「高度先端医療」「スポーツ整形外科」に重点を置いた単科専門病院として設立。肩関節と人工股関節ではトップクラスの手術件数を誇り、スポーツ整形外科分野では、多くの著名なプロスポーツ選手も受診する専門医療機関です。医療法人社団紺整会としては、地域医療・福祉の担い手として、病院、クリニック、介護老人保健施設などを運営。IT活用にも先進的に取り組まれ、desknet'sクラウドをポータルに各種医療システムを活用。医療法人全組織の情報共有にご利用いただいています。

この事例の
ポイント

- 1 早期よりウェブベースのグループウェアに着目
- 2 ワンパッケージで全機能が活用できるdesknet'sを採用
- 3 ウェブメールの利用推進で大規模ユーザーの活用が定着
- 4 運用効率を追求してApplitus~desknet'sクラウドへ移行
- 5 医療法人全組織の医療・医事業務の効率化と情報共有を実現
- 6 ポータル活用で各種医療システムをさらに使いやすく

早期よりウェブベースのグループウェアに着目

—— 医療法人として先進的なIT活用に取り組みられてきたとうかがっています。

電子カルテはおろか、診察室でPCが使われることもなかった時代から、IT活用には積極的でした。メールの導入やオフィス・アプリケーションによるペーパーレス化などに早い時期から取り組んできましたし、90年代後半にはグループウェアによる医療連携にも着目していました。しかし、当時はまだC/S型の製品が主流で、導入するには多くの課題を残していました。

24時間体制で医療スタッフが交替勤務する院内で情報共有を実現するには、端末が1人1台の必要はありませんし、むしろ1台のPCを複数のユーザーが共有して使い分けられる方が理想的でした。さらに、医療グループ全体のグループウェア活用を想定しても、C/S型では運用が大変難しく効率も悪いと判断しました。そのような背景から、当初よりウェブベースの製品に着目していたのです。

ワンパッケージで全機能が活用できるdesknet'sを採用

当時ウェブベースのグループウェアとして、導入候補に挙がったのがネオジャパンのdesknet's(導入当時はiOffice)と別の競合製品の2製品でした。当時、競合製品はメニューが切り売りされており利用機能を組み合わせる必要がありました。一方、desknet'sはワンパッケージで全機能が揃うので、導入後もニーズに応じて機能を自由に選択できました。各機能の使いやすさはもちろん、将来的な発展性や運用効率、コストパフォーマンスの点でdesknet'sが有利と判断し、2000年3月に無制限ユーザーで導入しました。

ウェブメールの利用推進で大規模ユーザーの活用が定着

—— ユーザー数が多いので、導入教育にご



総務部長
小口純男 様



企画部
企画部長
大内龍一 様



企画部
経営戦略・情報担当
課長
飯田英治 様

苦労はありませんでしたか？

まずウェブメールの活用を推奨しました。メールなら特別な教育や説明は一切必要ありませんし、必要な業務情報の多くがウェブメールで共有されていたので、自然に習慣として定着しました。現在は、新しい職員が入ってもログインIDとパスワードを伝えるだけで、すぐに活用してもらっています。

運用効率を追求してApplitus*~desknet'sクラウドへ移行

—— その後Applitus~desknet'sクラウドへと段階的に移行していただきました。

ユーザー数が多いので、利用年数に応じてデータ量も蓄積され管理が大変になっていきます。サーバーもリプレースするのはひと苦労で、自分たちで更新を繰り返すのは非効率と考えるようになり、運用の効率化のためApplitusへ移行しました。それがクラウドへ視野を向ける大きなきっかけとなり、desknet'sクラウドへのスムーズな移行にもつながりました。

* Applitusは旧desknet'sのSaaS型提供モデルの名称です。現在の「desknet'sクラウド」にあたります。

医療法人全組織の医療・医事業務の効率化と情報共有を実現

—— 各種機能のご活用状況についておたずねしたいと思います。

PCを複数のユーザーで共有しているので、利用効率上も管理運用上もウェブメールが扱いやすく、クライアントメールの採用は今後も考えられません。desknet's NEOは現在活用している複数の医療システムにログインするポータルサイトとして設定されており、医療法人全組織で活用しています。船橋整形外科病院では、肩関節・肘関節疾患

治療のスーパードクターや高度先端医療がマスコミで取りあげられることが多く、テレビ放映や雑誌掲載の際には、事前に告知・共有することになっています。特にテレビ放映の直後は反響が大きく、病院への問い合わせ電話が急増するので、対応する職員が事前対策のために共有しています。

ポータル活用で各種医療システムをさらに使いやすく

—— 各種医療システムとの連携についてくわしくお聞かせください。

どこからでもログインできるdesknet's NEOをポータルサイト化することで、独自に構築した各種医療システムに、迅速にアクセスできるようにすることが狙いでした。「インシデント報告書」「事務当直日誌」「看護日誌」「手術システム」「時間外対応報告」「入院台帳」などが活用の中心となるシステムですが、desknet's NEOのリンクから、ダイレクトかつ迅速に各システムにアクセスでき、複数のシステムを自在に使い分けて活用することが可能です。すべてウェブベースシステムなので、手近な端末にログインすればブラウザだけで必要なシステムがすぐに活用できるので、たいへん効率がいいです。

—— 医療従事者のみなさんにスマートデバイスの利用も広がっているそうですね

desknet's NEOになってタッチデバイスやスマートフォンでの使いやすさも向上しました。フレキシブルな勤務態勢の医師や看護師などが病院に不在時でもスケジュールやインフォメーションの情報確認に利用できるので活用しています。今後はワークフローなどを独自の申請経路に合わせて活用していければと考えています。

ご利用中の機能と使い方

15 スケジュール

個人の予定管理を基本とし、全職員のスケジュールが公開されている。特に事務系職員の利用率が高い。幹部や医師など来客とのやりとりが多い職員の利用率も高く、定例会議や打合せ日時の日程確認、ToDo的な活用も定着している。

インフォメーション

医療法人社団全職員への一斉告知に活用。グループ内の行事や学会などの日程、毎月変更される病棟出入り口のセキュリティキーの暗証番号の共有などに利用されている。

設備予約

会議室の利用管理に活用。余剰な会議室を減らし、常にフル稼働状態のため、効率的な利用管理に欠かせない機能。その他、プロジェクターやビデオ、学会発表用のノートPCなどの管理に利用している。

ウェブメール

最も利用率が高い機能。ウェブメール活用の上で定着によってdesknet's NEOへのログイン機会が増え、他の機能も同時にチェックする習慣につながっている。院内だけではなく外部とのやりとりが多い管理職などは振り分け設定をして活用している。

予約名	21(月)	22(水)	23(木)	24(金)	25(土)
1 第1会議室	11:00-12:00 セッションズ (1名)	10:00-12:00 セッションズ (2名)	10:00-12:00 セッションズ (4名)	08:20-10:30 セッションズ (1名)	14:00-15:00 セッションズ (1名)
2 第2会議室	13:00-14:00 セッションズ (1名)	14:00-15:00 セッションズ (1名)	11:00-13:00 セッションズ (1名)	13:30-17:30 セッションズ (1名)	
3 第3会議室	14:00-15:00 セッションズ (1名)	15:00-16:00 セッションズ (1名)	14:00-17:00 セッションズ (1名)		
4 第4会議室	15:00-18:00 セッションズ (1名)	15:00-18:00 セッションズ (1名)	18:00-22:30 セッションズ (1名)		
5 第5会議室	08:00-09:30 セッションズ (1名)	15:00-16:00 セッションズ (1名)	14:00-15:00 セッションズ (1名)	10:00-11:00 セッションズ (1名)	13:00-14:30 セッションズ (1名)
6 第6会議室	10:00-13:00 セッションズ (1名)	16:00-17:00 セッションズ (1名)	13:00-15:00 セッションズ (1名)		
7 第7会議室	15:00-16:00 セッションズ (1名)	15:00-16:00 セッションズ (1名)	09:00-10:00 セッションズ (1名)		

▲ 船橋整形外科病院様ご利用中の「設備予約」画面



医療法人
栄寿会
真珠園療養所



病院

190

ユーザー



医療・福祉



パッケージ版

ご利用製品	desknet's NEO			
導入時期	2013年	職員数	250名	
	設立	1962年6月	所在地	長崎県西海市
事業内容	精神医療専門病院、療養施設および指定居宅介護支援事業、グループホーム、ケアホームなど福祉関連施設の運営。			
URL	http://www.sinjyuen.com/index.htm			

「 広大な2万坪の院内情報共有とペーパーレス化が実現しました。」

医療法人栄寿会 真珠園療養所様は、長崎県西海市における精神科医療の基幹病院・療養型医療施設として総合的なチーム医療を提供しています。豊かな自然環境を活かした約2万坪の広大な敷地には、専門科ごとに300床を超える6つの病棟があり、その院内の情報共有にdesknet's NEOをご導入いただいています。それまで内線や書面に頼りがちだった報告・連絡は、desknet's NEOの活用でより迅速・確実となり、精神科医療で最も重要な「人を尊重し、向き合う医療」のためのチーム医療・ケアサービスの強化に活かされています。



この事例の ポイント

- 1 広大な療養医療施設の情報共有にdesknet'sを採用
- 2 desknet'sなら、医療職員の負担にならず活用できる
- 3 オリジナルネームで親しみが生まれdesknet'sが定着
- 4 desknet's NEOの活用を契機に院内施設でのパソコン利用が活性化
- 5 desknet's NEOは院内情報共有やITリテラシー向上に不可欠のツール

広大な療養医療施設の情報共有に desknet'sを採用



事務部総務課
主任
馬渡周一様



医事課
主任
荻本貴司様

2003年春、診療報酬明細書を作成するレセプトコンピュータの入れ替えを実施しました。その際、院内の情報共有の環境を整備しようと、併せてグループウェアを導入することにしました。当病院は自然環境を活かした療養医療施設のため、敷地が大変広く2万坪以上あります。さらに、快適な療養生活と早期社会復帰を目指す理想の医療を追求するため、専門科毎に病棟が6棟にも分かれ、300床以上もの規模を持っています。広範囲に広がる院内組織のコミュニケーションをより円滑なものへと改善したい。そう考えグループウェアを採用することにしました。

—— 以前の情報共有にはどのような課題があったのでしょうか？

2003年以前は、基幹となる医事課のシステムはすでに確立されていたものの、職員間の情報共有のシステムはありませんでした。施設や職員間の情報共有に関しては内線電話や書面でのやりとりが多く、スタッフが毎日必ず通るタイムレコーダーの打刻場に診療科や部署ごとの書類ポスト、いわゆるメールボックスのようなものを設置していました。そのような状況を改善したいと、desknet'sスタンダード版を導入することにしました。

医療職員の負担にならず活用できる

—— desknet'sをご採用いただいた決め手についてお聞かせください。

販売会社にグループウェアについて相談すると、「desknet'sが一番使いやすいですよ」との推薦を受けました。取り扱い製品やメーカーは複数ありましたから、他の製品とも比較しましたが、やはりdesknet'sが勧められ

たと通り使いやすく、わかりやすかったのです。つねに緊張感をともなう多忙な医療現場ですが、desknet'sなら職員に負担をかけることなく使いこなしてもらえると判断しました。医療機関は一般企業とは異なり1人1台の端末は必要ありません。空いている端末にそれぞれがログインして使えるのも稼働効率が良く、メリットだと感じられました。

—— 導入教育などは実施なさいましたか？

特別な教育は実施していません。まず、ユーザーに早くなじんでもらえるように当院独自のオリジナルネームをdesknet'sにつけました。その名もSIMS(サイムズ=Shinjuen Information Management Systemの略号)と言ひまして、今も「サイムズ」の呼称で親しみをもって職員間で使われるようになりました。

ニーズに応じて規模を拡大しながら2012年秋の電子カルテ開始時には、全部署全ユーザー約100台のパソコンでの運用となり、現在190ユーザーの活用が定着しています。

desknet's NEOの活用を契機に 院内施設でのパソコン利用が活性化

—— 医療系システムとdesknet'sの併用にユーザーが戸惑われることはありませんか？

当院では医療系システムの電子カルテとdesknet's NEOの二本立てで運用していますが、ほぼ活用の住み分けが確立されているのでそのようなことはありません。強いて挙げるなら電子カルテで勤務表を管理しているので、それが[スケジュール]の利用率に多少影響を与えている側面はありますね。もっ

ともdesknet's NEOは部署間、職員間の情報共有が主目的という意識は共有できています。戸惑いはないと思います。医療システムほど厳密ではありませんが、desknet's NEOでも医療的な守秘義務に関わる重要な繊細な情報が扱われる可能性はあります。そのような背景から、院外との交渉が必要な特定の部署を除いて外部とのやりとりには制限をかけています。desknet's NEOでは[回覧・レポート]が職員間のメールとして活用でき、情報を守りながら院内で自由な意見交換ができるのがいいですね。

desknet's NEOは院内情報共有やITリテラシー向上に不可欠のツール

—— 導入効果についてお聞かせください。

導入当初の目的通り、広い敷地に分散された院内情報共有の効率化に貢献してくれました。あくまでも「医療システムが主でグループウェアは縦」という考えで導入しましたが、desknet's NEOの活用が、院内におけるPCの積極利用やITリテラシーの向上にもプラスの効果を与えてくれました。相互のスケジュール確認の効率化はもちろん、紙資料を作成する煩雑な手間や資料配付の労力もなくなり、効率的な情報共有の実現と共に、今まで作成していた膨大な紙資料がなくなりペーパーレス化も実現できました。医療従事者の負担も軽減され、そのゆとりを充実した医療に役立てる契機にもなりました。desknet's NEOの効果は、当院の医療方針でもあり精神医療で最も大切な「人を尊重し、向き合う医療」に活かされています。

ご利用中の機能と使い方

回覧・レポート

最も利用率の高い機能。会議議事録、研修案内、軽微な事務連絡などに利用。今まで時間をかけて紙媒体で回覧をしていた文書が、準備の手間もなく瞬時に共有でき、全部署で便利さを実感している。さらに、「医療安全対策」「院内感染予防」「褥瘡対策」などグループ分けして医療情報やナレッジを共有している。資料共有・閲覧状況が確認できるうえ、守秘義務のある情報が外部へ漏洩することを予防でき、安心して利用できる院内メールとして、外部との交渉を行う部署のeメールと住み分けがなされ、職員間のコミュニケーションに活用されている。

インフォメーション

院内行事案内などの告知と共有に活用。有益な情報が掲載された他の医療機関の広報誌などもスキャンして掲示している。今まで個別な手法でバラバラに掲示されていた紙の掲示物や広報資料が一元管理できるようになった。

15 スケジュール

ユーザー個別のスケジュールを管理。部署やユーザー間の所在問い合わせなどがなくなり一定の効果を出している。今後は「見せる」「共有する」スケジュールの活用をさらに高めるよう取り組んでいく予定。

文書管理

院内で使用する文書、「身上異動届」「物品の購入」「交替表」「慶弔関係」などの書式、様式をすべて共有。つねに最新の書式で申請することが徹底された。



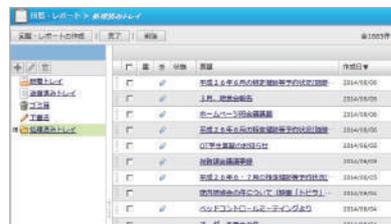
▲ 真珠園療養所様ご利用中の「文書管理」画面

ワークフロー

承認が必要な申し送り事項など、毎日の「事務連絡」に活用している。将来的には「ロール」設定なども活用し、稟議的な書類や医師の会議の承認・確認などに活用したいと検討中。

設備予約

研修室をはじめとする院内施設の予約管理に活用。以前は内線をかけ書類で管理していたためダブルブッキングなどが起きていたが、全ての予約管理が一元化され、各設備がムダなく活用できるように。



▲ 真珠園療養所様ご利用中の「回覧・レポート」画面



大成建設 株式会社



大手総合建設業

13,000

ユーザー



建築・不動産



パッケージ版

ご利用製品	desknet's NEO						
導入時期	2013年	従業員数	8,095名(グループ企業全体で約20,000名)	設立	1917年	所在地	東京都新宿区
事業内容	建築工事、土木工事、機器装置の設置工事、その他建設工事全般に関する企画、測量、設計、監理、施工、エンジニアリング、マネジメント及びコンサルティング						
URL	http://www.taisei.co.jp/						

「新たな経営戦略の推進にむけて、desknet's NEOを採用。

2万ユーザーの連携強化で、ポジティブな経営改革に挑みます！」

近代日本を代表する経済人、創業者大倉喜八郎の進取のスピリッツを受け継ぎ、大手建設企業の中では数少ない非同族系企業として自由闊達な社風を重視してきた大成建設株式会社様。ITによる経営・業務改革にも積極的に取り組んできた同社では、グループウェアも早期より導入・活用してきました。このたび新たな経営戦略・グループ企業間連携の強化を目指して、グループウェアをdesknet's NEOに刷新。2013年、創業140周年を迎え、トルコでは150年来の構想・夢だったボスポラス海峡トンネルを独自の技術によって実現。鉄道を開通させました。国内外で飛躍する事業を根底で支える情報共有の要、desknet's NEOの活用法について社長室直轄 情報企画部の皆さまにお話をうかがいました。



この事例の ポイント

- 1 カスタマイズで永年活用してきたグループウェアを最新の製品へ
- 2 グループ経営の強化と大規模ユーザーの利用に適したdesknet's NEOを採用
- 3 導入後2ヶ月で、回覧・レポート1万2,000通/1日平均を達成
- 4 2万人の活用を予定。desknet's NEOが経営戦略の核となるツールに

カスタマイズで永年活用してきた グループウェアを最新の製品へ

—— desknet'sをご導入いただいたきっかけは何ですか？

90年代後半から基幹系業務システムのweb化を推進していました。同時期に業務システムをすべてwebアプリに変えて企業ポータル運用にも着手しました。2002年にはコミュニケーション系の基盤も刷新しています。その際、web版の企業ポータル導入にあわせてdesknet's(導入製品は「iOffice V3」)を採用したのです。

—— その後長期にわたりご活用頂きました。web版企業ポータルとdesknet'sの導入にあわせて、アクセス権の設定や個人認証にも厳密な規程と体制を整備しました。アクセス権の厳密な管理を確立する一方で、個人認証後は、シングルサインオンで多様なアプリケーションを活用できるような環境も整備しました。desknet'sにもカスタマイズを施してシステム全体との親和性をはかり、ユーザーの利用度を高めました。永年にわたり活用され、定着していましたが、様々な条件からリプレースすることになったのです。

グループ経営の強化と大規模ユーザーの活用に適したdesknet's NEOを採用

—— グループウェアを刷新するまでの経緯をお教え下さい。

グループ経営やコミュニケーションの強化を目指す経営戦略の一環として2011年から「ICT投資5ヵ年計画」施策に取り組んでおり、その中核にあるのが、ポータルとグループウェアの刷新でした。自社のシステムに適合化し活用していたdesknet'sですが、11年も活用していると、行き交う情報量が飛躍



社長室
情報企画部
企画室長
成瀬亨 様



社長室
情報企画部
企画室課長
島田裕司 様

的に増大し、情報共有の重要性が益々認識され、業務がグループウェアに依存する度が増してくるなど課題も浮上しました。カスタマイズの影響がバージョンアップを阻んでいましたし、経営戦略強化の観点から、本社とグループ会社全体の情報共有と業務効率化を実現する仕組みにしたかったのです。

—— そしてdesknet's NEOをご採用いただきました。

2012年3月、4社にRFPを発行し、新たなグループウェアの製品選定を開始しました。特に重視したのはグループ会社の展開を視野に入れた利用者管理とアクセス制御の確立、スマートデバイスの活用と最適化、情報をより迅速に共有できるPUSH機能の強化等で、約3ヶ月にわたる製品検討を経てdesknet's NEOへの乗り換えを決定しました。

採用の決め手は、「メール機能の充実」、「各種既存データの移行性の高さ」、「ユーザーの使いやすさ」、「バージョンアップへの無償対応やコスト・パフォーマンス」、「大規模ユーザーにおける利用や運用のしやすさ」等でした。新たにグループ企業への展開も控えていますので、規模や業態が異なる各企業が抱えている課題やニーズに配慮し、企業ごとに必要な機能が選択できるなどの要素にも配慮しました。グループ企業全体の個別のニーズや2万ユーザーの活用に応えられるような仕様は特に重視した点です。

導入後2ヶ月で、回覧・レポート 1万2,000通/1日平均を達成

—— 導入後2ヶ月で、すでに利用度の高い機

能が見られたようです。

desknet's NEOは2013年7月より本格稼働し、すでに1万3,000ユーザーが活用しています。[回覧・レポート]は[ウェブメール]との使い分けで、当初より社内メールとしての活用を想定していましたが、導入後2ヶ月で、一日平均約5,000ユーザーによって1万2,000通がやり取りされるまでに利用度が上がりました。また[スケジュール][設備予約]の登録は一日平均4,500件です。各機能の利用度は着実に高まっているところです。

2万人の活用を予定。 経営戦略の核となるツールに

—— 導入後の効果についてお聞かせ下さい。

企業内ポータルのガジェットと連携させることで、desknet's NEOの新着情報が迅速に告知され、必要な情報へのアクセス効率が向上しました。最も利用度が高い[回覧・レポート]も機能の改善や使用感の向上で利用件数が増大しています。従来の製品から飛躍的な進化を遂げた。それが、desknet's NEOに対する印象です。新たなインターフェースはデザイン的にも、機能的にも進化していますし、HTML5の採用はユーザーの使用感を高めるだけでなく、処理速度も向上するなど、作業効率の観点からも高く評価できると思います。当初のねらい通り、desknet's NEOがグループ経営を強化する上で必要不可欠なツールとなりました。今後2万ユーザーの利用を予定していますが、管理運用面はもちろん、コストの観点からもdesknet's NEOは評価できる製品です。

ご利用中の機能と使い方

ポータル

企業内ポータルに、ビーコンIT社製のinfoScoopを採用。「desknet's NEOのメニュー」「各機能の新着情報」をガジェットとして組み込みグループウェアの機能活用を効率化している。

インフォメーション

全社および各部署への通知等に活用。10~20件/日、情報がアップされ上限90日間公開される。情報の質にあわせ文書管理と使い分けしている。

回覧・レポート

社内メールとして活用。1日平均5,000ユーザーが約1万2,000通近く利用している最も利用度の高い機能。添付ファイルのやり取りも多く、個人間でもグループでも活用している。ここから全社員に向けて通知を発信することも可能で、desknet's NEOへの乗り換えによって、部署全体への一斉メールなどで一度に発信できる件数も向上した。

ウェブメール

[回覧・レポート]と使い分け、外部とのやり取りを行う際に活用している。desknet's NEOに移行したことで、インターフェースも刷新され、クライアントメーカーに匹敵する使用感で、ユーザーから飛躍的に使い勝手がよくなったと評価されている。

文書管理

書式集、座席表、通達・通知の他、多様な文書を格納。登録文書数は約8,500件(21,500添付ファイル)。



▲ 大成建設様ご利用中の「回覧・レポート」画面

15 スケジュール

全社員の予定を公開。内勤部門の利用率が高いが、施工現場や移動が多い社員からPCのない場面でもdesknet's NEOを活用したいというニーズが高く、スマートデバイスの活用領域を広げてゆく方針。

設備予約

会議室などの予約に活用。[スケジュール]とも連携しており、登録数は一日平均4,500件。つねに予約登録・管理が行われている利用度の高い機能。



▲ 大成建設様ご利用中の「スケジュール」画面



三紀運輸 株式会社



鮮度管理物流

150

ユーザー



交通・運輸



パッケージ版

ご利用製品	desknet's NEO						
導入時期	2013年	従業員数	1,400名	設立	1972年5月	所在地	大阪府吹田市
事業内容	物流業。食品輸送を専門としたサードパーティーロジスティクス(3PL/物流最適化支援事業)による鮮度管理物流、一般貸切輸送の近郊/遠隔(長距離)大型輸送、中小ロット荷の全国輸送、FC店舗への食品輸送、小売店舗への四温帯輸送(食品)など。						
URL	http://sanki-group.com/						

「ポータル活用とSSOで、業務システムの運用を効率化できました。」

三紀運輸株式会社様は、食品輸送に特化した鮮度管理物流の専門企業です。仕入れ～配送までを一貫して請け負うサードパーティーロジスティクスによって、食品を最高品質で維持管理・高速輸送する独自のノウハウを確立。大手スーパーなどのチェーンストア業界や食品業界の緻密かつ高度な輸送ニーズに応えています。社内情報共有にグループウェアをいち早く導入した三紀運輸株式会社様ですが、既導入のC/S製品やその後採用したウェブベース製品の不十分さを克服するためにdesknet's NEOへリプレイス。グループウェアdesknet's NEOを介して、業務システムの効率的な運用も実現しています。



この事例の
ポイント

- 1 既存製品の課題を解決するため、グループウェアのリプレイスを決定
- 2 ウェブメールの使用感とコストパフォーマンスを評価し採用
- 3 導入教育なし。1カ月間の並行運用のみでdesknet's NEOが定着
- 4 desknet's NEOポータル+SSOで、業務システムを連携活用
- 5 desknet's NEOで業務システムの利用効率も向上

**既存製品の課題を解決するため、
グループウェアのリプレイスを決定**

—— 以前のグループウェアでは、どのような課題があったのでしょうか？

当社は岩手から鹿児島まで、全国に支店や営業所を配置しています。事業所間の確実な意思疎通をリアルタイムで実現しようと2002年、C/S版のグループウェアを導入しました。ちょうど事業系・情報系のシステムを導入するタイミングで、グループウェアもその一環として採用したのですが、システム全体で数億単位のコストがかかり、売り上げとの比率から見ても不均衡なコストが生じていました。そのまま使い続けるにはあまりにも課題が多く、さらに毎年のメンテナンス費用も加算され莫大な投資となっていました。

—— そこでシステムの見直しが行われたのですね。

システム管理部を新設し、すべてを再検証しました。2008年にはグループウェアも他社製のウェブベース製品へリプレイスしました。ある程度コスト抑制効果は得られましたが、2013年4月にサーバー類の更新時期を迎えるにあたって、より使い勝手の良いグループウェアへのリプレイスをふたたび検討することにしました。

**ウェブメールの使用感と
コストパフォーマンスを評価し採用**

実情に適したグループウェアを検討していたところにdesknet's NEOのリリース情報を得ました。2013年2月が正式リリースなので実際の試用期間は短かったのですが、それまでの製品への不満や課題を克服できると



代表取締役社長
杉野利幸 様



システム管理チーム
次長
鈴木猛 様

共に、リプレイスにあたっての機能的な要件も網羅していました。前製品で問題となっていた改善要求項目も満たしていましたので、2013年3月には導入を正式決定しています。

—— 採用の決め手をお聞かせください。

desknet's NEOと競合製品の比較も行いましたが、競合品は販売会社の対応面に不満もあり、結局ウェブ上のデモで確認することになりました。desknet's NEOについては、前製品で活用していた機能に該当するものはすべて試用しました。特にメールの改善が顕著で、ドラッグ&ドロップの使用感なども、よりクライアントメールに近い感覚で活用でき、全体的に革新的な要素を感じました。単純にコストだけみれば安価な製品は他にもありますが、実質的な機能と価格のバランス＝コストパフォーマンスという観点からdesknet's NEOを採用することにしたのです。

**導入教育なし。1カ月の並行運用のみ
でdesknet's NEOが定着**

—— リプレイスにあたって特別な導入教育などは実施なさいましたか？

以前のシステムで、ユーザーはグループウェアの概念や各機能の役割を理解していたため、特別な教育は必要ありませんでした。ただし、desknet's NEOのインターフェースや機能に慣れるまでに約1カ月間前製品と並行運用を行い、移行および試用期間としました。ユーザーには旧製品のデータは1カ月後にすべて削除することを理解してもらい、並

行運用期間はdesknet's NEOの各機能への自由な書き込みも積極的に行ってもらいました。ウェブメールについては、ドラッグ&ドロップなど操作性が向上し、ユーザーも通常のメーラー同様、当初より違和感なく活用できていたと思います。

**desknet's NEOポータル+SSO
で、業務システムを連携活用**

シングルサインオンで基幹配送管理システムなどの業務系システムや、ワークフロー、社内ホームページなどを活用できるようにしています。朝出勤したらdesknet's NEOにログインしなければ業務は始められませんし、社員の多くは「desknet's NEOを使っている」という特別な意識は持たずに利用が定着していると思います。

**desknet's NEOで業務システムの
利用効率も向上**

—— 導入効果についてお聞かせ下さい。

desknet's NEOを採用したことによって、以前の製品以上の使いやすさをグループウェアで実現できました。ウェブメールもさらに機能的になり、コミュニケーションツールとしての活用度は確実に広がっています。朝desknet's NEOを立ち上げたらシングルサインオンで基幹システムや社内ホームページも自由に活用でき、業務システムの利用効率も向上したと思います。

ご利用中の機能と使い方

ポータル

ポータルとしてdesknet's NEOを活用し、業務に不可欠な基幹配送管理システムやワークフローなどへのシングルサインオンを実現。重要なリンクを集めた社内ホームページなどもレイアウトされ、ユーザーが各種システムを縦横に活用できるように。

インフォメーション

物流業に不可欠なドライバー向けの告知事項などを全国の支店・営業所で共有。国交省の指導により法令で定められた安全運行計画や年度・月・日ごとの安全運行目標も掲示されている。それらを各拠点の朝礼やミーティングで確認しあう慣例となっており、掲示および印刷によって、社員・ドライバーが安全意識を共有している。

電子会議室

新規プロジェクトに際して、支店間の情報交換に活用することなどを検討中。

閲覧・レポート

閲覧状況も確認できるので、本社から各支店への連絡・通達・告知に活用。安全目標や速度管理、法令遵守、走行マナーの強化などコンプライアンス関連の共有項目や、豪雨・雪など天候による路面状況や交通情報など、支店・営業所からの注意喚起情報を共有している。日々の朝礼の内容は必ず提示され、業務の都合で参加できなかった社員が確認できるようにしている。

ウェブメール

かつては守秘義務の観点から、社内限定メールだけが使われていたが、desknet's NEOから通常のメールとしての活用が定着。ドラッグ&ドロップなど、クライアントメールに近い使用感で使いやすく、業務用のメールとして活用されている。

15 スケジュール

部署・個人単位で活用。一般社員はオープンにしているが、代表取締役社長は秘書および、相互に予定確認が必要な役員・社員にのみ公開している。

文書管理

適性診断、健康診断などドライバーの提出書類や従業員本人が押捺して提出する各種申請書類の最新版を保存。各支店ごとに入力して利用する勤怠表などのExcelフォーマットやひな形も保管している。

★ ブックマーク

利用頻度の高いホームページへのリンクをまとめたブックマークをレイアウト。ドライバーの日報入力フォームなど、ウェブ上で入力する各種リンクや労働状況のホームページなど、業務上頻りに閲覧する各種コンテンツへリンクしている。



▲ 三紀運輸様ご利用中の「ログイン」画面



学校法人

麻生塾

麻生専門学校グループ



学校

500

ユーザー



学校・教育



パッケージ版

ご利用製品	desknet's NEO			
導入時期	2013年	教職員数	437名	
	設立	1939年3月	所在地	福岡県福岡市
事業内容	専門学校の運営。12校80学科100コースの西日本最大級の総合専門学校グループとして、実践的かつ高レベルな人材育成力と各専門分野における高い就職実績に定評がある。2014年文部科学大臣認定『職業実践専門課程』認定。			
URL	http://www.asojuku.ac.jp			

「教職員437名の予定管理と12校360室の教室運用を効率化できました。」

学校法人麻生塾 麻生専門学校グループ様は福岡・北九州を中心に12校80学科100コースを擁する西日本最大級の専門学校グループです。専門分野・学科・コースも多彩なうえ学校施設が12校に分かれ教職員数も多く、情報共有にも様々な改善課題を抱えていました。そのような中、2014年より本格的にdesknet's NEOの活用を開始し、横断的な情報共有の環境整備を実現。短期間で教職員のスケジュール管理や教室293・パソコンルーム80の計373室の運用効率化、教育現場のアイデアの共有などに成功しています。

この事例の
ポイント

- 1 全12校をリアルタイムでむすぶ情報共有のシステムが必要だった
- 2 適正なコストで大規模ユーザーの活用に必要な効果を
- 3 積極的な活用意識がdesknet's NEOの利用促進につながった
- 4 desknet's NEOで全教職員の予定を共有。施設・教室の運用も効率化
- 5 現場のアイデアをdesknet's NEOで共有、教育効果につなげる

**全12校をリアルタイムでむすぶ
情報共有のシステムが必要だった**

—— desknet's NEO以前の情報共有の状況
はいかがでしたか？

当校は非常勤の講師も含めると教職員が1,000名を超える大きな組織です。しかも校舎は12校80学科に分かれており、各校に事務室・教務室があります。組織全体を連携する情報共有システムへの要望は高く、以前は米国大手の情報管理製品を採用し、イントラネット上でメーリングリストやドキュメント管理などの運用をしていましたが、ユーザーに浸透することはなく、全校利用に繋がりませんでした。一部のユーザーからは「使いにくい」という声も挙がり、メールと電話に頼るコミュニケーションの状況は改善されませんでした。そこで、サーバーなど老朽化した情報基盤の刷新にあわせて、新たにグループウェアの導入を検討することになりました。

**適正なコストで大規模ユーザーの
活用にも最大の効果を**

—— 製品選定に先がけて、入念な比較検討が
行われたそうですね？

前述の導入製品も含め、desknet's NEOとその競合製品、米国の著名な製品やフリーウェアの製品まで複数の製品を比較検討しました。前製品は、業務に適合させるためには開発の手を加える必要があり、その他の製品もコストがかかりすぎたり、ユーザーに相応のスキルが求められたりと、それぞれに課題が多いと感じられました。

最終的にはトータルコストで最も有利で、最新のdesknet's NEOを採用しました。大ユーザーのため特にコストについてはシビアに精査し、イニシャル＆ランニングコストで他のどの製品よりもdesknet's NEOが優位と評価できました。また、ユーザーインターフェースもわかりやすく統一感があり、直感的な操



業務推進室
黒木康博 様



業務支援センター
管理グループ
入口美保 様

作性でITの習熟度を問わずに使いこなせると判断しました。それは、一般企業とは異なり、専門分野によってITの習熟度に差がある教員が活用する上で重要でした。

企業や学校を訪問する事多い営業や渉外担当者は、スマートフォンやタブレットを常時携帯していますが、モバイルツールへの対応もdesknet's NEOを採用する上で評価したポイントです。HTML5への柔軟な対応も、将来的に利用を継続する上で期待できる点でした。

**積極的な活用意識が
利用促進につながった**

—— 導入に先がけてユーザー向けの教育な
どは行われましたか？

当初の四半期は各校へ出向いてdesknet's NEOの新規導入の目的や基本的な操作、各種機能の活用手法などを伝える場を設けました。今回は別のワークフローシステムもあわせて導入するので2時間程度の講習を実施しましたが、desknet's NEOはそれほど難しい製品ではありませんし、浸透するまでに大きな課題や苦労はなかったと思います。講師陣は企業で活躍していた方も多く、情報共有に関する指摘やアドバイスも集まりました。また、現理事長が積極的に情報環境の改革に取り組んでいることもあり、desknet's NEOのようなツールを積極的に活用しようという意識が自然に醸成されたと思います。

**desknet's NEOで全教職員の予定
を共有。施設・教室の運用も効率化**

—— 導入後の効果はいかがでしょうか？
導入直後から[スケジュール]の積極的な利

用、[設備予約]の活用が始まりました。学校法人全体で293室の教室と80室のコンピュータ室がありますが、今まで12校が個別に管理・運用していたそれらの設備の一括管理・運用が実現し、講師1人ひとりのスケジュールもリアルタイムで把握できるようになりました。教室の運用状況が瞬時に把握できるようになり、授業以外の会議や打合せに空き教室を活用するなど、施設の有効活用も可能となりました。

**現場のアイデアをdesknet's NEOで
共有、教育効果につなげる**

—— 導入効果についてお聞かせ下さい。

desknet's NEOは学校法人全体の横断的な情報共有ツールとして実務面の効率化に役立っています。教室やコンピュータ室などの施設は重要な資産でもあり、資産運用状況の可視化をdesknet's NEOで実現できたこととなります。これからは社会人向け講座など新たなニーズに応じていく必要もあり、施設運用の効率化は、新たな教育の場・学びの機会を広げることにもつながります。

また、「教育」という側面からもdesknet's NEOは一定の効果をもたらしてくれました。社内ソーシャル機能の「ネオツイ」の活用もその好例です。当初は「つぶやき」「ダイレクトメッセージ」などの自由な活用を不安視する意見もありましたが、教員・講師陣はそれぞれに、社会経験も豊富で、担当教科毎に専門分野を究めている方達です。実際に活用してみると、ユーザー間の自由な発想や教育への熱意のようなものが互いに確認・共有できる事が分かりました。その成果を麻生塾の教育レベルの向上に活かしていきたいですね。

ご利用中の機能と使い方

15 スケジュール

全教職員のスケジュールを公開・共有。導入前はカリキュラムや時間割を一元管理するシステムがなく、desknet's NEOによってはじめて全校横断的にスケジュール共有できるようになった。電話やメールでの確認が不要となり、職員の所在や講師のスケジュールと授業予定、利用教室まで一括管理できるように。

設備予約

全校293教室、PCルーム80室、会議室30室の運用管理を中心に活用。授業の予定と同時に、教室の管理も全校リアルタイムに行われるようになった。[スケジュール]との連携で12校の施設運用・管理が効率化された。的確な施設稼働率の実態把握が可能となり、施設運用の割り振りが無駄なくできるようになった。

ネオツイ

自発的に活用が拡がり、教務におけるシンプルな質問や疑問、授業の効果・改善アイデアを教員が自由に意見交換する場として発展。理事長も「つぶやき」で発信するなどブレインストーミング的な応用が展開され、メール等では発信しにくいアイデアや意見、最新情報をいち早く発信・交換することで、授業の改善や教務のモチベーション共有等に効果をあげている。

アンケート

職員向けの要望アンケートやキャリアプランの希望調査など、実務で不特定多数の意見を集約するために活用。多様な意見の集計ができるようになった。意図や目的に応じた属性をセグメントしやすく、効果的に意見収集ができるようになった。

ウェブメール

学校・企業訪問を担当する職員など、外部からメールの閲覧・返信が必要な特定部署の担当者が活用。

文書管理

申請書類の最新フォーマットを保管。分散していた申請書類を整理・集約できた。

インフォメーション

事務局や本部からの告知を中心に活用。従来はメールを多用していたが、見落とすこともなくなり、確実な情報告知を実現できた。

それぞれの会社の機能活用法を紹介中！

		スケジュール	ウェブメール	設備予約	インフォメーション	回覧・レポート
01. 株式会社オーエム製作所	製造	★	★	★	★	
02. 三幸製菓株式会社	製造	★		★	★	
03. 山陰酸素工業株式会社	製造	★	★	★	★	★
04. 広友ホールディングス株式会社	サービス				★	
05. 株式会社みどり会	サービス	★	★		★	★
06. 狛江市社会福祉協議会	医療・福祉	★	★	★	★	★
07. 医療法人社団紺整会 船橋整形外科病院	医療・福祉	★	★	★	★	
08. 医療法人 栄寿会 真珠園療養所	医療・福祉	★		★	★	★
09. 大成建設株式会社	建築・不動産	★	★	★	★	★
10. 三紀運輸株式会社	交通・運輸	★	★			★
11. 学校法人麻生塾 麻生専門学校グループ	学校・教育	★	★	★	★	

選べる2つの利用形態

デスクネット ネオは、社内サーバーやレンタルサーバーにインストールして利用できる「パッケージ版」と、サーバーを持たずにサービスとして利用できる「クラウド版」をご提供。どちらの利用形態でもデスクネット ネオのすべての機能をご利用いただけます。



伝言・所在	ワークフロー	文書管理	電子会議室	ネオツイ	アンケート	キャビネット	ポータル	ブックマーク	安否確認
★	★								
		★	★	★			★		
	★				★	★	★	★	
	★	★	★		★	★			★
★	★	★		★	★				
★		★							
	★	★							
		★					★		
		★	★				★	★	
		★		★	★				

▶ P 03

▶ P 05

▶ P 07

▶ P 09

▶ P 11

▶ P 13

▶ P 15

▶ P 17

▶ P 19

▶ P 21

▶ P 23

desknet's NEO

ライセンスをご購入頂き、社内サーバーや仮想環境、レンタルサーバーなどにインストールしてご利用頂く形式です。

スモールライセンス

¥39,800 ~

(5ユーザー/税別)

エンタープライズライセンス

¥1,500,000 ~

(300ユーザー/税別)

desknet's クラウド

利用するユーザー数分の月額または年額料金のみで、サーバーを持たずにサービスのみご利用頂く形式です。

月額

¥400

(1ユーザー/税別)

製品に関する最新の情報やお問い合わせはホームページから 

 デスクネッツ ネオ

検索 

<http://www.desknets.com/>

開発・販売元

株式会社ネオジャパン

〒220-8110

神奈川県横浜市西区みなとみらい 2-2-1

横浜ランドマークタワー 10F

※記載されている商品名、製品名は各社の登録商標または商標です。
※記載されている内容につきましては予告なしに変更することがあります。

